

千葉県農政センター リニューアルプラン

千葉県経済農政局農政部
令和4年5月27日公表

目次

I. リニューアル構想策定	・・・ P. 3
1. リニューアルプラン策定	
2. 各エリアの計画策定	
①スマート農業実証フィールド	
②新たな生産モデルの創出	
③研修事業及び農業技師の技術力・指導力の強化	
④種苗供給事業	
3. 施設整備計画	
II. 検討委員会	・・・ P.27
1. 第1回検討委員会	
2. 第2回検討委員会	
3. 第3回検討委員会	

I リニューアル構想策定

I - 1 リニューアルプラン策定

I - 2 各エリアの計画策定

I - 3 施設整備計画

I-1 リニューアルプラン策定 ミッション・ビジョン・バリュー

リニューアル後も千葉市農業にとって農政センターが貢献し続ける拠点であるために
“在り方”から見つめ直し、ミッション・ビジョン・バリューを策定することとした。

Mission 【事業理念／存在意義】

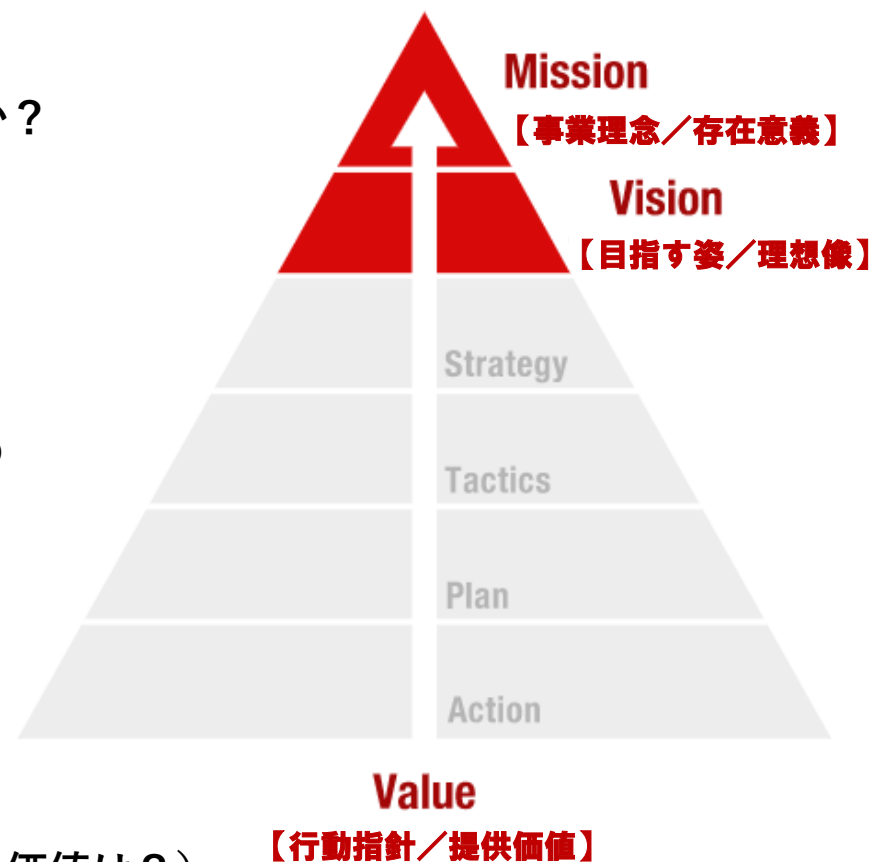
農政センター・農業技師は何のために存在するのか？
組織が存在する目的（何のために活動するのか？）

Vision 【目指す姿／理想像】

千葉市（農業や市民生活）や千葉市農政センターの
目指す将来の姿（10年後の理想像）

Value 【行動指針／提供価値】

組織内で共有する価値観
（日々どのように行動するか？ 農業者に提供する価値は？）



ミッション・ビジョン・バリュー策定ワークショップの実施

1. 組織のらしさ

2. 提供価値

3. 重点的に 支援したい事業者

4. 社会の期待

技師・職員が複数回のワークショップを通して自身の価値観・想いに向き合って創造

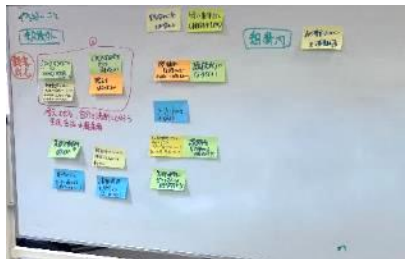
メモリアルワーク

農業技師がモチベーションの源泉となる、これまでに最も心に残った仕事を振り返り、大切にしている価値観を抽出



あえてやっていること/ あえてやらないこと

農業技師が普段の業務であえてやっていること、やらないことを言語化し、農業者と接する際の大切にしている価値観を抽出



好かれない相手/ 距離があっても良い相手

農政センターが担う機能や役割やスタンスを整理するため、支援する事業者像を抽出



千葉市農業・農政セン ターが抱える課題の考察

農政センターが取り組むべきこと、向き合うべきことを見出すため、千葉市農業や農政センターの現状課題を抽出



農政センター Value

一体

農家、市民、同僚が
一体となり進める

寄り添い

農業者に寄り添い
農業者の目線で接する

根気

未来を見据え
あきらめず、根気強く

楽しむ

目の前の仕事の
「楽しい！」をつくる

挑戦

創造性とチャレンジ精神を
持ち一歩前を進もう

現場

地域・農家の現場を
知ることから始まる

主体

常に主体は
農業者である

迅速

地域・農家の困りごとに
迅速な対応を

正確

情報の真相を理解し
正確な情報を届ける

Mission

**農業のすぐそばで、「人と技」を活かし
農にまつわる全ての人に貢献します。**

○農業生産の中で様々な困りごとが発生しても、農政センターはいつも一番近くにいて、すぐに現場に駆け付け、相談、対応する存在になります。

○農政センターは、農業生産に必要な技術と、それを使える、伝える人材を確保、育成します。

○農業者はもとより、市民をはじめとした消費者、農産物を販売する者、加工する者、技術を開発する者など農業分野に関わる全ての者が笑顔になることに貢献します。

Vision

ビジョン	農政センターは農業のあらゆる相談を受けるトータルコーディネーターとなります
ビジョン	農政センターは農地の整備・集約を進め、千葉市を県内有数の産地にします 農業の担い手として新規就農者を集め、優良経営体へ成長させます
ビジョン	農政センターが農業と市民を繋ぐ窓口となります 市民が千葉市農業に親しみ、その価値を享受することに取り組みます



ビジョン	＜千葉市農業の姿＞ 農地の整備・集約と担い手の成長・参入が進む県内有数の産地 ＜農政センターの姿＞ 農業のトータルコーディネーター／農業への窓口
------	--

解説文

農地の整備・集約が進み、耕作放棄地が減少します。既存の様々な農業者の経営が継続する一方、新規就農や企業参入が盛んに行われ、千葉市は県内有数の産地となります。

農政センターは、技術・情報の提供を中心に、農業のあらゆる相談を受けるトータルコーディネーターとなります。また、市民が農業に親しみ、その価値を享受するための窓口となります。

農政センターのリニューアルの方向性

－方向性の概要－

- 農業分野の技術革新やグローバル化など農業情勢の大きな変化により、農政センターの担うべき役割を見直し
- 本市農業の成長産業化に資するため、「スマート農業実証フィールド化」「栽培試験・研修の強化」「農業技師の指導力の強化」の3つの方向性でリニューアルプランを策定、機能を強化

◆これまでの農政センターの役割

園芸振興のための技術普及の拠点

概況

- これまでの農政センターは野菜等園芸産地の育成を役割とし、市内農業の生産振興に重点
- 施設の老朽化や農政センター職員の減少により、年々組織的な指導力は低下

機能・役割

- 野菜・花き産地育成のための種苗の供給
- 野菜の栽培試験による技術指導の充実
- 担い手確保のための新規就農者研修の実施

取り巻く環境・周囲の声

- 地域農業者の声：農政センターは人が少なくなって継続した指導力が低下しており、不満
- 企業の声：行政のフィールドで新技術実証ができることは魅力！ぜひ連携したい！
- 社会情勢の変化：
 - ・ コロナ禍により、都市住民の地域農業への関心が向上
 - ・ オンラインの販売サービスの急増等、消費行動が多様化



◆リニューアル後の農政センターの役割

「人と技」を活かした都市農業の拠点

注力品目選定・種苗供給力の強化

- マーケットインの発想に立ち、千葉市内外での販売戦略を重視した種苗供給や新たな品目を検討
- イチゴ生産農家拡大に向けた育苗ハウスの増設

有望なスマート技術の実証・新たな栽培モデル確立等

- 企業と連携し、スマート技術をはじめとした新技術の実証・確立を行う（R3年度24社ヒアリング実施）
- SDGs 対応型イチゴ栽培施設を整備実証
- 有機農業の実証展示や本市主要品目の品種比較を実施し、農業者が集まる場を設置
- 農業技師の拡充とジョブローテーションによる知識や経験の平準化を図るとともに、データ活用できる農業技師を育成し、農家に寄り添った営農指導を強化

人材育成・研修の強化

- 都市農業に必要な不可欠な経営戦略を有し、新たな知見の導入を意欲的に行う、千葉市農業の次世代を担う人材を育成（アドバンス研修）

リニューアル後のセンター運用・活動の計画

4月

7月

10月

1月

3月

実証

アグリテック

栽培

実証試験運営

取組の周知（周年）

実証技術の
募集・選定

実証座組
づくり

技術実証・新農法開発

結果
の
振返り

成果
の
発信

栽培エリア（イチゴ・トマト、有機栽培等）での**新しい栽培モデルや新品種の検証**

農業者研修 | 新規就農者向け 経営支援・栽培技術習得支援

就農計画

募集

研修計画
策定

研修実施

種苗供給 | ウイルスフリー苗

ワケネギ・坊主不知ネギ

ラッキョウ

イチゴ

種苗供給
計画策定

経営・営農支援

補助金申請受付・支援

有害鳥獣対策等

農業者交流会



内容

- ・ 農業経営講習
- ・ 試験結果報告
- ・ 情報交換
- ・ 補助事業等の情報発信

農業者支援・交流
農家・市民

イベント

農業者
交流会



夏の
食農教育イベント

- ・ 子供向け農育
- ・ 食の価値伝達

農業者
交流会



〔検討中〕秋の
センター開放

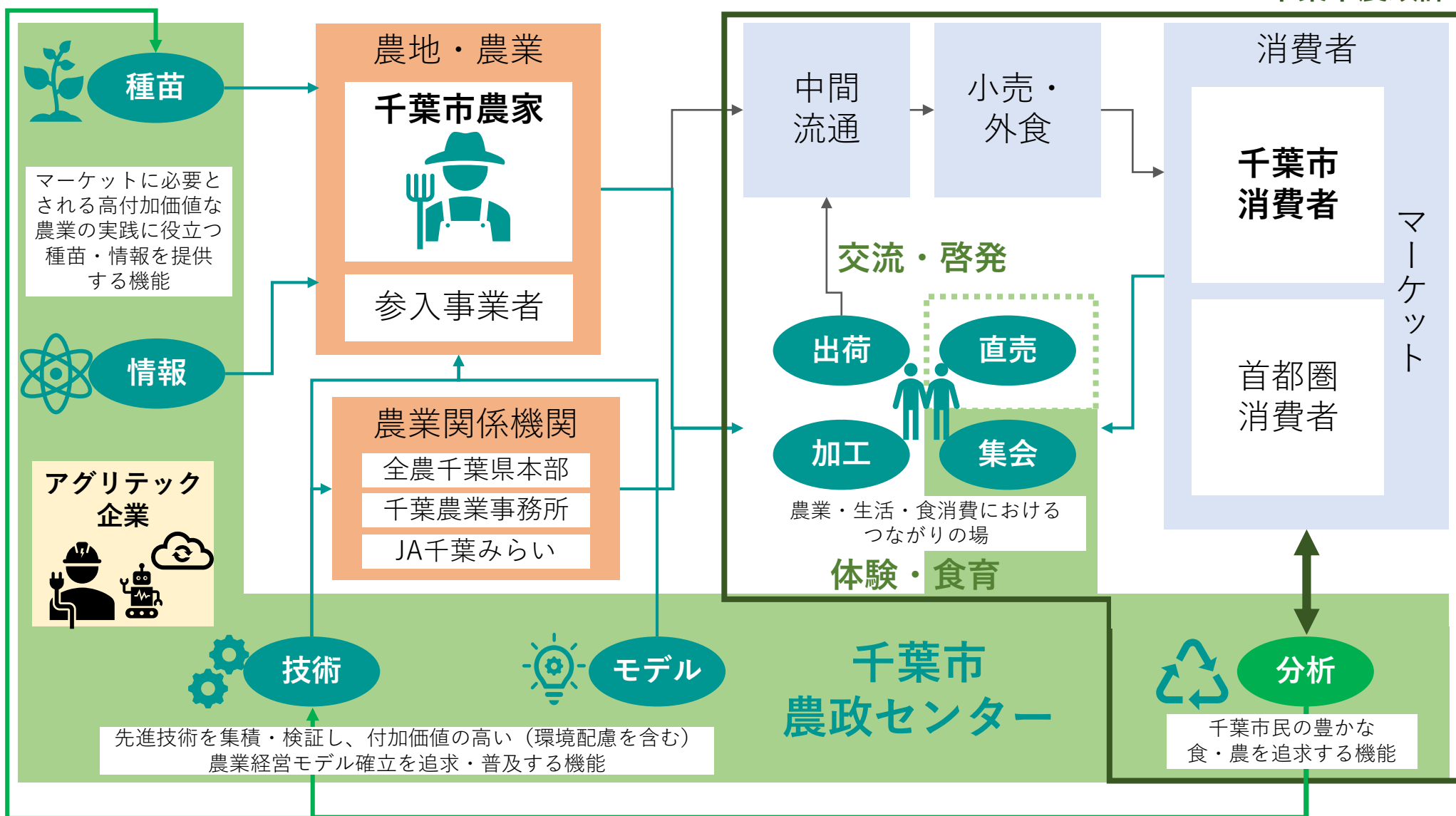
- ・ 農業技術体験
- ・ 実証成果報告
- ・ 参加型の食催事
- ・ 農産物直売会

技師
育成

栽培及び経営指導機能強化にむけた内部研修
(ex.データ活用型農業経営指導、栽培コンサル講義受講、等)

【参考】リニューアル後の連携イメージ

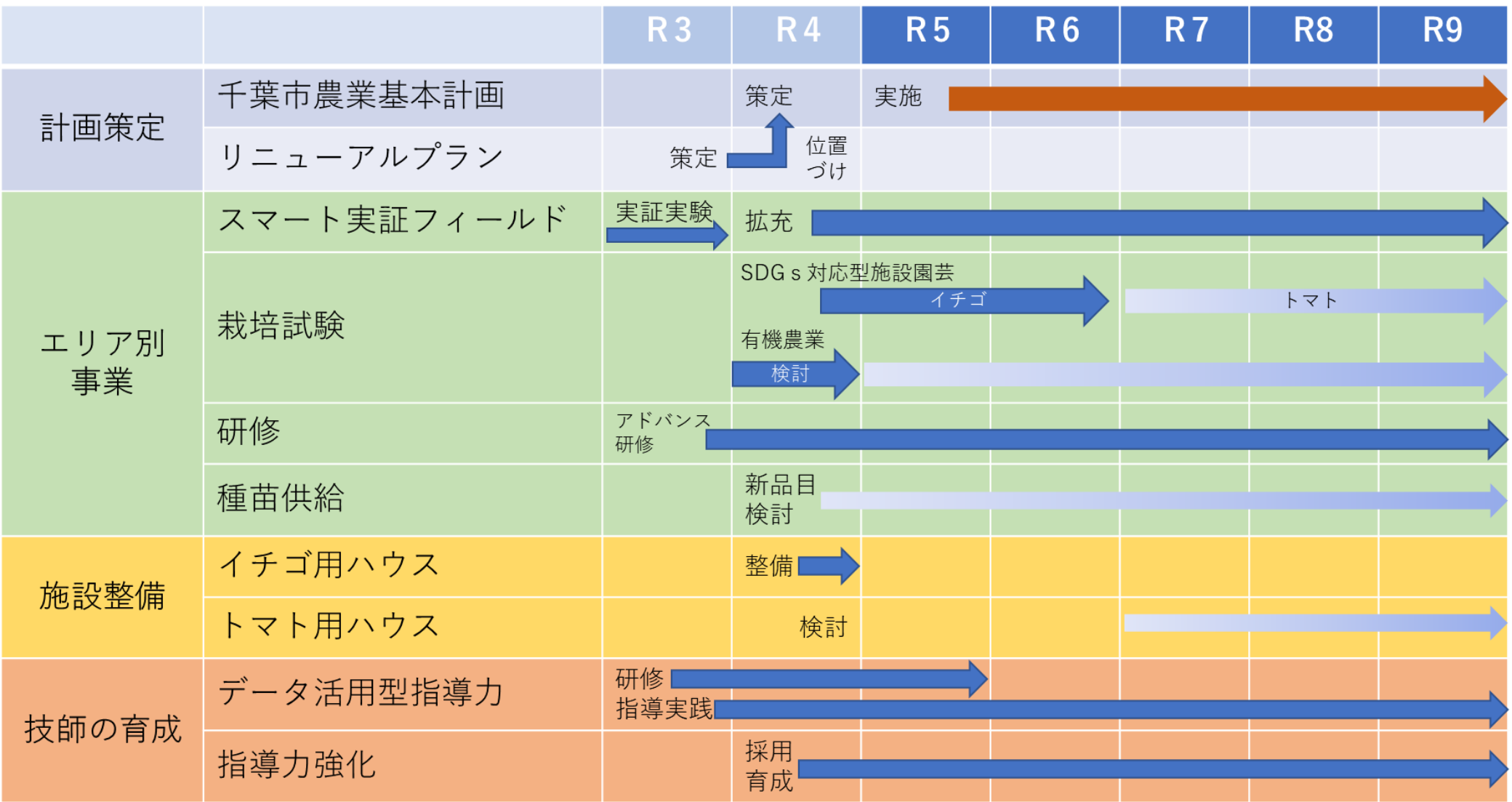
千葉市農政課



農政課と連携して、千葉市民の食の豊かさを農業で体現

今後のリニューアル実施の展望

農政センターリニューアル計画及び事業実施工程



実施決定事業 検討事業

I リニューアル構想策定

I - 1 リニューアルプラン策定

I - 2 各エリアの計画策定

I - 3 施設整備計画

I - 3 各エリアの計画策定

エリア名・事業名

リニューアル計画概要

①スマート農業実証フィールド

有望なスマート農業技術を選定し実証フィールドまたは市内農家圃場で検証し、成果を発信する。

- ・ 生産農家、アグリテック企業、農政センター互いにメリットとなるマッチングにより実証実験を実施
- ・ 農政センターや市内生産農家の有する資源を活用し、農業の未来に向けたアグリテック企業の技術開発に貢献
- ・ 農政センターはスマート農業技術の活用を促進するため、本市生産農家や農業関係者が新技術を体験できる機会を創出

②栽培試験事業

千葉市という立地と環境に配慮した農業経営を鑑みた新しい栽培方式を検証・構築する。

- ・ 農業生産でのSDGs推進、農政センターが保有している資源活用の2つの観点で、千葉市農業の発展に貢献する新たな生産モデルを創出
- ・ 施設栽培においては、「ハイブリッド式加温ハウスでのイチゴ栽培」「ソーラーシェアリングでのトマト栽培」の2つの技術モデルを検証
- ・ 露地栽培においては、「有望品目の新品種・栽培実証」「新たな有望品目の発掘」「有機農業」の3つに取り組む

③農業者研修事業

イチゴもしくはトマトでの新規就農者を育成する“新規就農アドバンス研修”を確立する。

- ・ 様々な品種がある本市の立地を活かし農業として稼ぐことが期待できる品目として選定
- ・ 農業技術のみならず、農業経営、また販売も含めて実践力まで養う1年間の多岐にわたる研修を通し、千葉市でトマトもしくはイチゴの生産で独立就農し、自身の収益をしっかりと確保できる農業者を育成するだけでなく、将来的に地域を牽引できる農業者を育成
- ・ 強い経営基盤確立のためにデータ農業を指導する。そのための農業技師のスキルアップ研修も実施

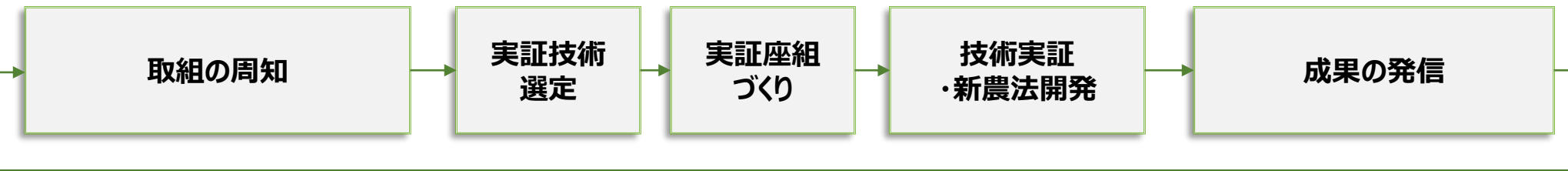
④種苗供給事業

マーケットインの視点で千葉市民に必要な農産物を選定し、その種苗供給機能を担う。

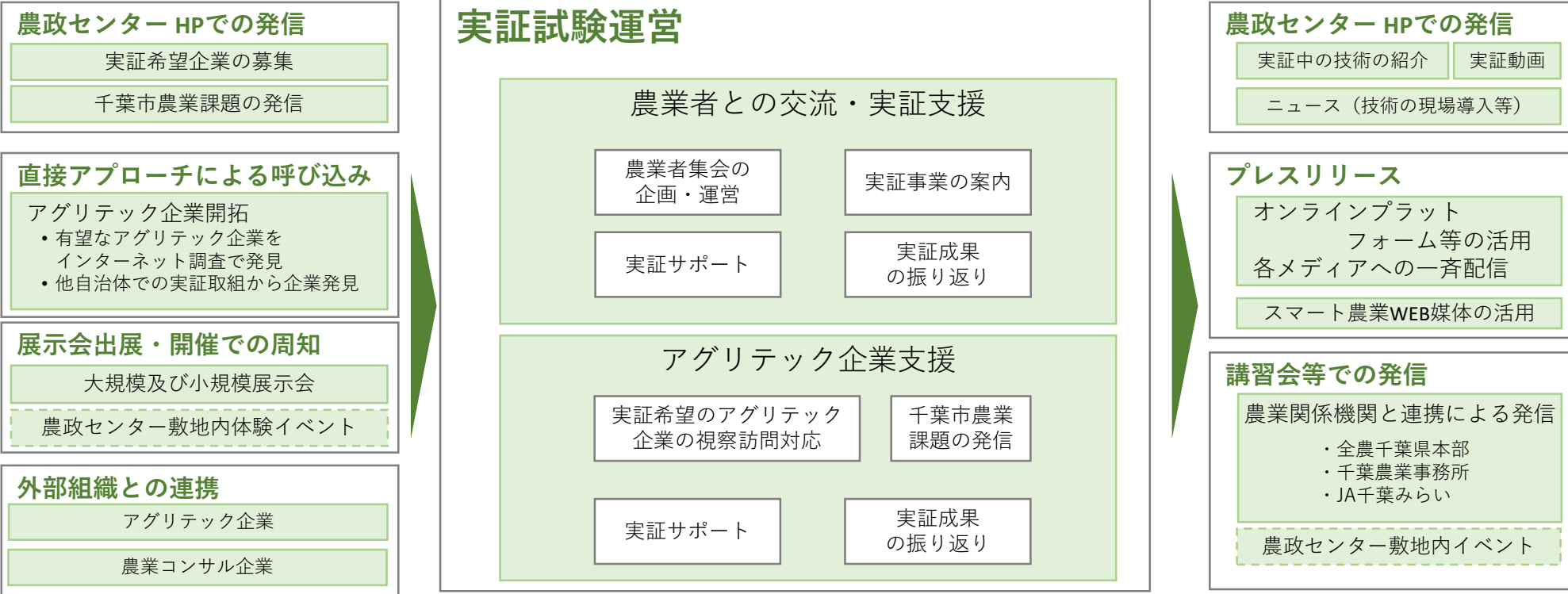
- ・ <農産物選定の視点1 | 需給ギャップ>
 - ・ 千葉市内における生産量と消費量との差を試算し、市外からの調達に依存しており市内生産として有望な品目を導く。
- ・ <農産物選定の視点2 | 栄養素充足率>
 - ・ 推奨される「一日あたりの栄養価摂取量」と「千葉市民の栄養価摂取量」を比較し、健康維持のために千葉市民が摂取が足りない栄養素／栄養価を試算し、効率的に摂取できる品目を導く。

①スマート農業実証フィールド（運営計画案）

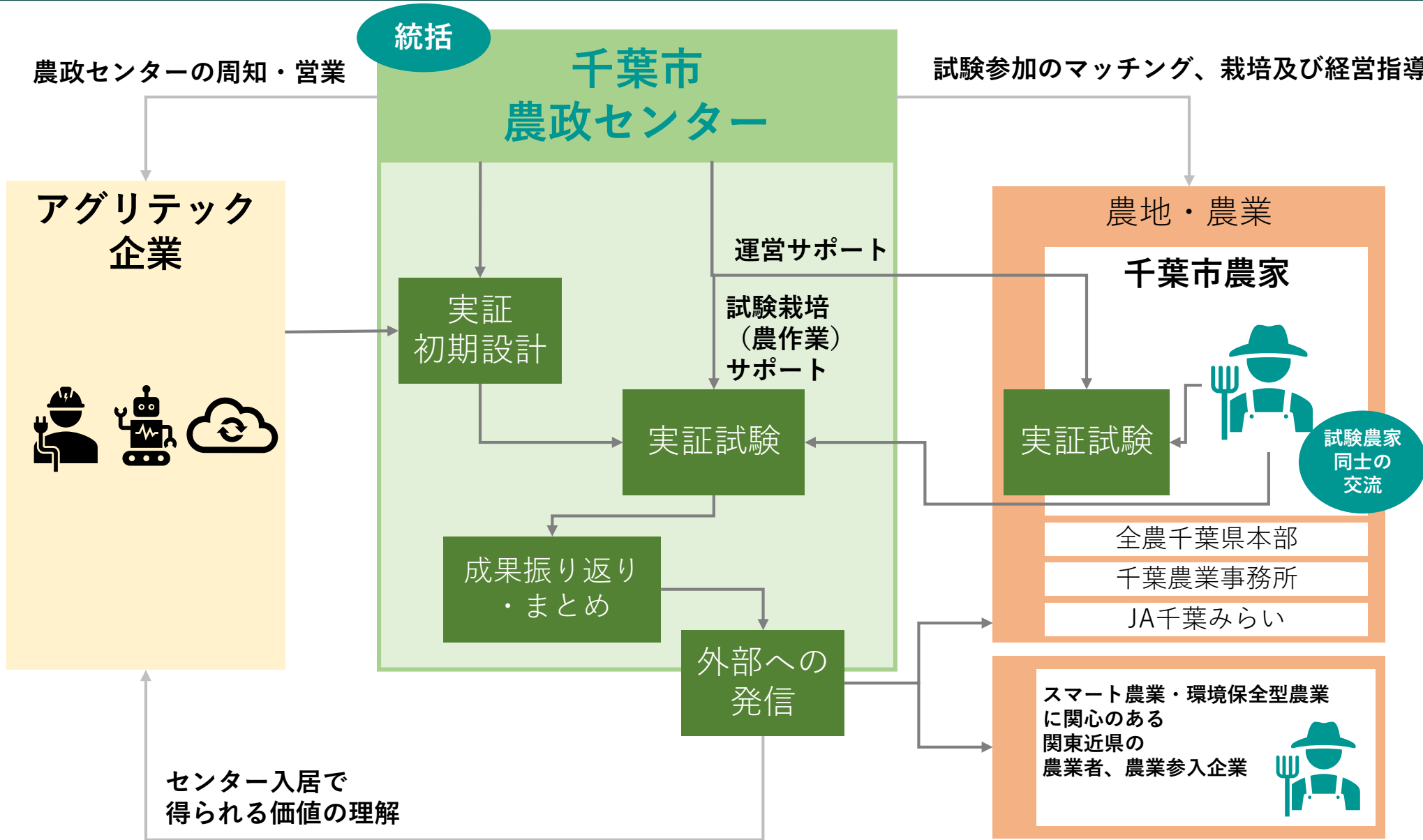
年間の運営計画・流れ案



取り組み案



①スマート農業実証フィールド（実証試験の座組）



①スマート農業実証フィールド（企業への対応案）

アグリテック企業への実証フィールド対応案

<方針>

- ・生産農家、アグリテック企業、農政センター互いにメリットとなるマッチングにより実証実験を実施する。
- ・農政センターや市内生産農家の有する資源を活用し、農業の未来に向けたアグリテック企業の技術開発に貢献する。
- ・農政センターはスマート農業技術の活用を促進するため、本市生産農家や農業関係者が新技術を体験できる機会を創出する。

対応策	時 期	対 応
①	R4年度～	農政センター内の直営ほ場において実証実験を行う
②	R4年度～	個別協議の上、農政センター内直営ほ場での実証を検討する
③	R4年度～	個別協議の上、市内農家での実証実験の実施を検討する
④	R4年11月予定	農政センターが行う（仮称）スマート農業体験会展示会に参加いただく
⑤	R4年度～	具体的な技術や実証内容について再協議する

【参考】スマート農業関連調査 アグリテック企業インタビュー結果

■ヒアリング対象企業

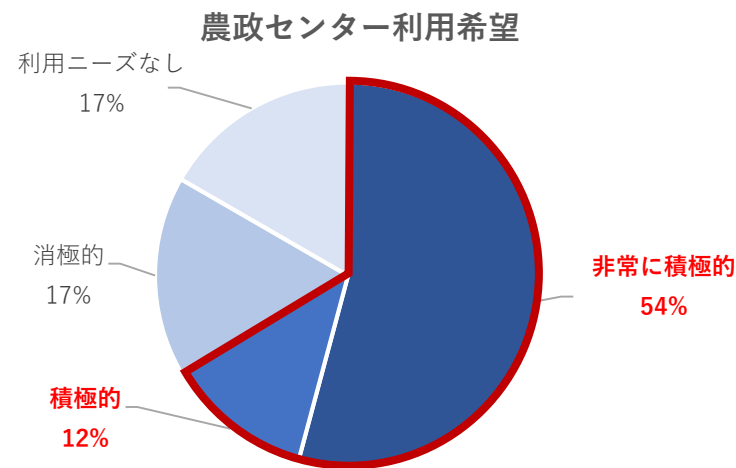
2021年10月から約2か月をかけ、様々な分野のアグリテック企業計24社に対し、**千葉市農政センターの実証実験フィールドの利用希望**や、**実験を行いたい開発技術**、**千葉市農業への展開可能性**などについて幅広くご意見を頂くヒアリングを実施した。

結果として、非常に多くの企業が千葉市農政センターを活用した実証実験や千葉市農家との共同実証実験の実施、また千葉市農家とのコミュニティ形成などに強い関心と高い意欲を持っていることが確認できた。

■ヒアリング結果詳細

上記の24社へのヒアリングの結果、千葉市の農政センターの実証実験フィールドの利用に積極的な企業は全体の**約66%の16社**に上った（右記円グラフ）。具体的には、センター活用にとっても積極的な企業は13社、積極的な企業は3社となっている。

全体を通して、アグリテック企業は技術開発のための実証実験地を必要としているだけでなく、**千葉市の農家とのコミュニティを形成**することで、**より現場の生の声、つまり農家の意見やニーズというものを強く求めている**ということが明らかになった。農業経営現場のリアルな課題を解決する、新しい技術商品や新しい農業経営モデルの創出に農政センター、農家・農業組織、アグリテック企業の知見を合わせて取り組んでいくことにアグリテック企業は大きな期待を抱いている。



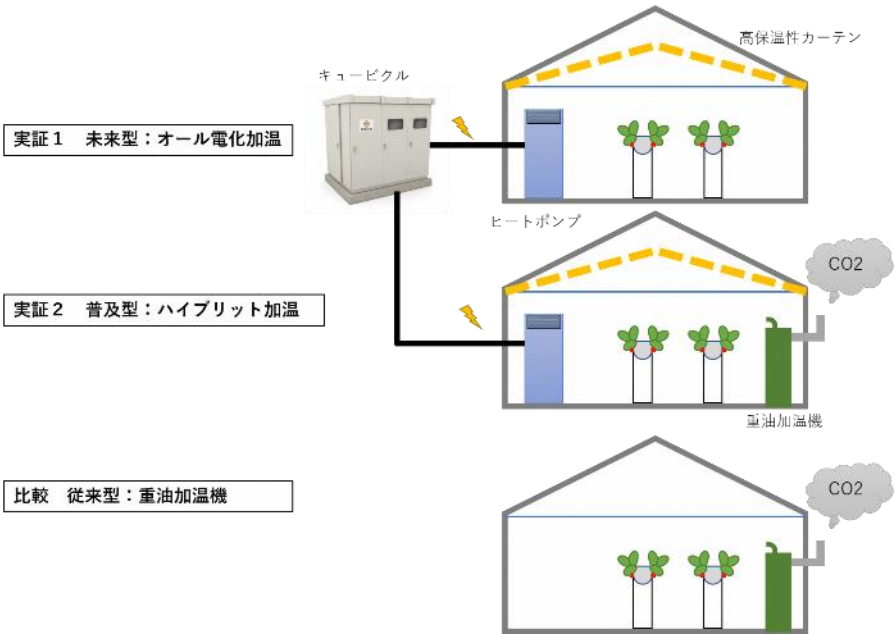
②栽培試験事業/新たな生産モデルの創出 | 施設栽培

施設栽培における取り組み

農業生産でのSDGs推進、農政センターが保有している資源活用の2つの観点で、千葉市農業の発展に貢献する新たな生産モデル創出に取り組む。施設栽培においては、「ハイブリッド式加温ハウスでのイチゴ栽培」「ソーラーシェアリングでのトマト栽培」の2つの技術モデルを検証する。

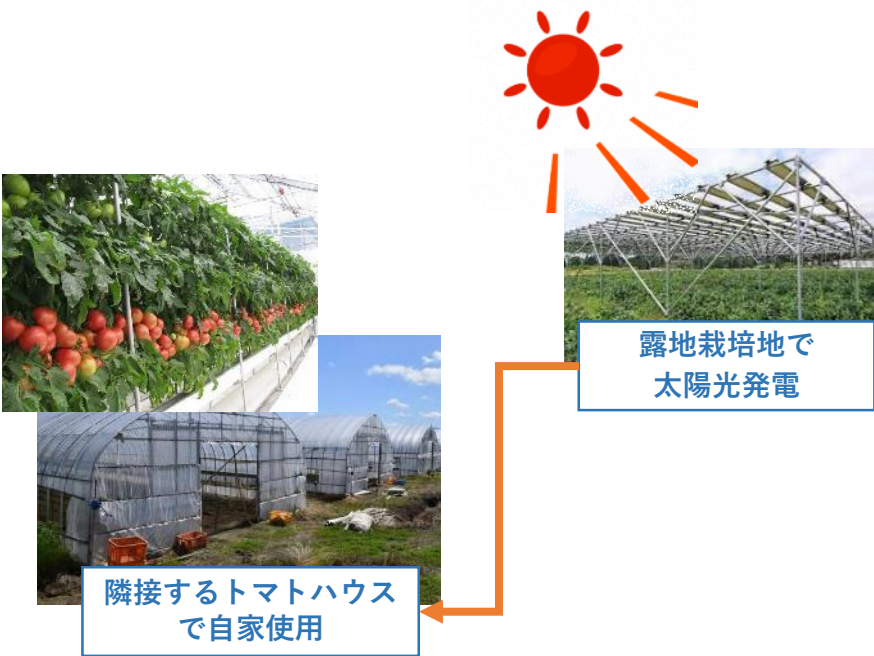
ハイブリッド式加温ハウスでのイチゴ栽培

次世代施設園芸における環境配慮型栽培モデル創出に向けた実証。燃油使用量削減とCO2排出削減をテーマとし、かつ農業経営の収益性を損なわないモデルについて、農政センターにて最適モデルを検討する。
環境配慮型だが事例の少ないオール電化加温と、低コストだが環境負荷の高い従来型重油加温の間をとる「ハイブリッド加温」により、千葉市農業者が活用できるモデルを見出す。



ソーラーシェアリングでのトマト栽培

次世代施設園芸における収益向上栽培モデル創出に向けた実証。ハウス栽培で使用する電力を、併設した露地圃場に営農型太陽光発電（ソーラーシェアリング）を設置するモデルを検討する。露地栽培地に太陽光発電パネルを設置し発電し、越冬型トマト栽培ハウスでの環境制御盤・カーテン・LED等の電力消費に使用する。同時に、千葉市において太陽光発電パネル下でも栽培でき、収量が確保できる、千葉市農業者が活用できるモデルを見出す。



②栽培試験事業/新たな生産モデルの創出 | 露地栽培

露地栽培における取り組み

農業生産でのSDGs推進、農政センターが保有している資源活用の2つの観点で、千葉市農業の発展に貢献する新たな生産モデル創出に取り組む。露地栽培においては、「有望品目の新品種・栽培実証」「有機農業」に取り組む。

有望品種の栽培実証

市の主要品目であるニンジン、市内で栽培面積の多い落花生について、品種比較、県の新品種の試験栽培、新技術検証などを行う。

<市の主要品目 ニんじん>



<市内栽培面積の大きい 落花生>

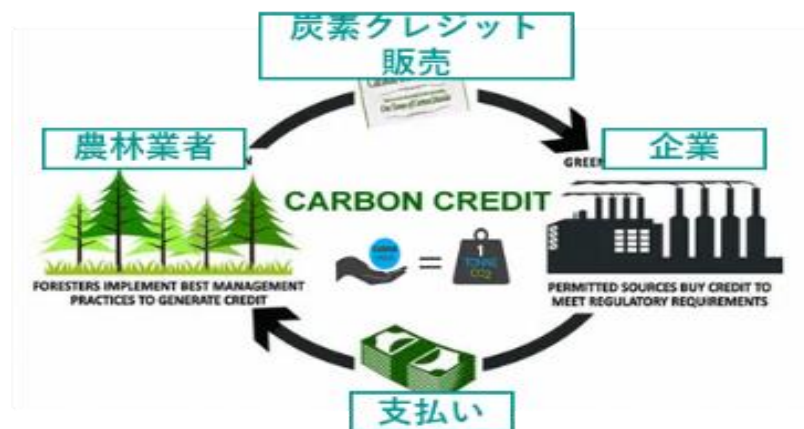


有機農業

今後拡大の進む有機農業にて
市内農業者が新たに取り組む際に参考にできる情報を農政センターでの試験栽培で獲得する。

生産面では、生産の安定性、必要な労力の検証。

経営面では、必要なコスト、農業者同士の情報交換を可能にするグループ組成、見込める販路、炭素クレジット販売の手法などの検証。



『新規就農アドバンス研修』をスタート

農政センターでの1年制の模擬経営研修

農政センター内におけるインキュベーションファームでの模擬経営と、技術や経営を軸とした講義による専門知識など、営農実践に役立つノウハウを習得させ、地域を牽引する農業者育成を目指す。

イ 座学講座（経営・技術）、農家研修、技術フォローなど
ウ 就農準備支援（就農計画作成、農地探し等）

[illegible]

座学と実践を意欲有る希望者に実施

- 千葉市において地域を牽引し得る農業者候補を選定
- ① 千葉市への就農意欲
(研修後千葉市にて就農する意思があるか)
 - ② 目標意識
(明確な目標を持っているか)
 - ③ 実現可能性
(自己の現状に照らして、目標設定が妥当なものであるか)
 - ④ 農業への思い
(どのような農業をしていきたいか／地域貢献意欲が高いか)



- 総受講時間 1,200 時間以上
- カリキュラム・座学講義 36 コマ
(農業技術 12 時間／ 農業経営 12 時間／ 実践力講習 12 時間)
- その他技術実習
- 栽培実習
(圃場／ 地域農家研修／ 機械講習／ 振返りを含む)

③農業者研修事業/農業技師の技術力・指導力の強化

データ活用による経営力強化を支援する取り組み

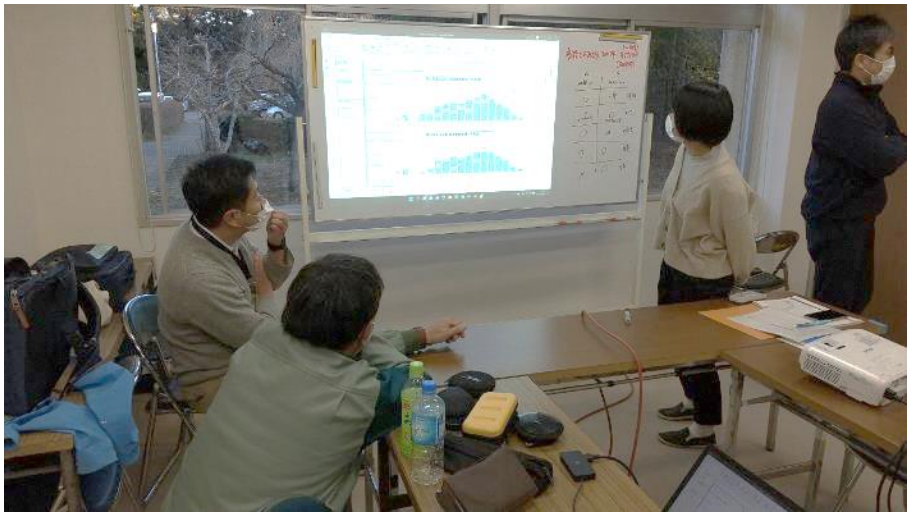
データを活用した農業経営数値の見える化を促進し、農業者が迅速な経営判断を行えるよう支援する。
農業者に『データを活用した経営分析の手法を教示する』サービスは現在類がなく、自治体では全国初。

データ活用型の農業指導の実践

R3年度より、データを駆使した農業経営の支援準備を開始。
スマート農業実証により得られた環境モニタリングデータに加え、
農業データを総合的に見える化した経営サポートを実施。
これまで気象や生育調査のデータを活用した生産技術の改善にとどまっていたが、栽培環境モニタリングデータや経営データを総合的に活用することで、経営まで指導の範囲を広げる。

経営指導まで行える技師の育成

データ活用技術とは、経営学の手法を用い農業者の現状やビジネスを把握し、生産活動から出荷販売までの中で得られた各種データをもとに課題を分析、仮説を立てながら改善戦略を立てること。
迅速な経営判断の強化を支援するには、農業技師がそのスキルを身につける必要があるため、同様のサービスを展開しているコンサル会社から指導を受ける形で農業技師育成の取組を開始している。



④種苗供給事業

新たな有望品目の発掘

マーケットインを意識し、
千葉市民・消費者が求める農産物の特定と、
当該品目の産地形成に向けた取り組みを以下の視点で行う。

<視点1 | 需要供給GAP>

千葉市内における生産量と消費量との差を試算し、市外からの調達に依存しており市内生産として有望な品目を導く。

－有望品目の例－

トマト

キュウリ

ピーマン

ナス

<視点2 | 栄養素充足率>

推奨される「一日あたりの栄養価摂取量」と
「千葉市民の栄養価摂取量」を比較し、
健康維持のために千葉市民が摂取が足りない栄養素／栄養価を
試算し、効率的に摂取できる品目を導く。

－有望品目の例－

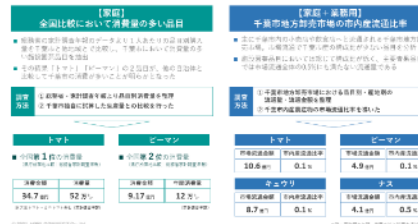
マイクログリーン(ベビーリーフ)

モロヘイヤ・きのこ 等

千葉市の家計調査から 消費量の多い品目を特定

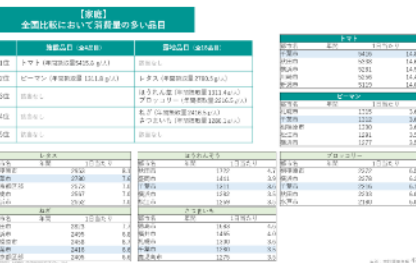
3. 有望品目調査－①市内の需給GAP

千葉市民が多く消費している品目は「トマト」「ピーマン」である
市場流通は、施設園芸品目における千葉市産農産物の流通量は極めて少なく
すべての主要な施設園芸品目で市外からの調達に頼っている状況である



千葉市産野菜の市内流通比率 が低く消費量大の品目を特定

3. 有望品目調査－①市内の需給GAP



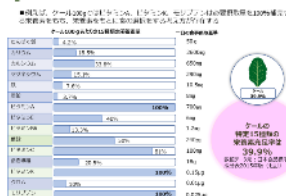
千葉市の家計調査から 不足する栄養素を特定

「市民の不足する栄養素」の特定



単位重量あたりの 栄養素充足率が高い品目を調査

栄養素主体で農産物を選択する考え方



栄養素が凝縮されている マイクログリーンという 可能性

マイクログリーンの可能性



I リニューアル構想策定

I - 1 リニューアルプラン策定

I - 2 各エリアの計画策定

I - 3 施設整備計画

I - 3 施設整備計画

千葉市農業の成長産業化を目指すリニューアルプランの実現に向けて、
令和4年度および令和5年度における施設整備計画の基本方針を策定

千葉市農業の成長産業化に向けた重要成功要因（CSF）

都市農業の特性を生かした施設園芸の普及

生産技術の向上

担い手の確保

経営指導力の向上

農政センターリニューアルプランの方向性

スマート農業実証フィールド化

栽培試験・研修の強化

農業技師の指導力強化

施設整備計画の方針

【令和4年度 施設整備計画の方針】
SDGs対応型イチゴ栽培施設の整備と
運営基盤の構築

- 燃油削減技術実証と収益性向上の実証を行うイチゴ栽培施設の整備

既存温室8・9号施設が対象

- 高品質・安定供給用のイチゴ育苗施設の整備

既存温室3・4号施設が対象

【令和5年度 施設整備計画の方針】
イチゴ育苗供給機能拡大と
他品目(トマト)へのモデル展開

- イチゴ生産数増加に対応するための育苗施設の整備

既存網室3号施設が対象

- 再生可能エネルギー活用実証と収益性向上の実証を行うトマト栽培用施設の整備

既存温室6・7号施設が対象

令和5年度計画



Ⅱ. 検討委員会

検討委員会について

計3回の検討委員会を開催。事業の進捗共有と関係者の意見聴取を行うことで多様な視点を取り入れ、農政センターの取組みに磨きをかける。

検討委員会の目的

農政センターは、千葉市農業の発展を担う重要な機能である。農政センターの方針策定は、多様な視点を取り入れる必要がある。千葉市農業に関わる関係者の意見を聴取する機会として開催する

主な議題

第1回	第2回	第3回
10月26日	2月8日	3月15日
1. 農政センターのリニューアル構想 2. 令和4年度の施設改修計画 3. アグリテック企業／農業者への要望調査の中間報告 4. リニューアルに対する要望聴取・意見交換	1. アグリテック企業／農業者への要望調査結果 2. 有望品目に関する調査結果 3. 各エリアの事業計画 ① 企業利用エリア ② 栽培試験・研修エリア ③ 種苗供給エリア	1. 各エリアの事業計画 ① 企業利用エリア ② 栽培試験・研修エリア ③ 種苗供給エリア 2. 農政センターのミッション・ビジョン・バリュー 3. リニューアル成功に向けた意見交換

検討委員会メンバー

検討委員の概要

■ 設置目的

- 本市の都市農業の将来を見据え、農政センターリニューアル方針、機能について意見を聴取し、ともにより良い計画を検討するため

■ 委員

	業 種	法人・団体名称	委 員	栽培品目
1	農業者	サンタファーム	篠崎 俊介	イチゴ観光農園
2	農業者	ヒキラ農産	加藤 伸一	水 稻
3	農業者	ベジフルファーム	加藤 遼亮	コマツナ
4	農業者	東部地区出荷組合連合会 会長	高橋 義男	ニンジン等
5	農業者	大塚秀農園	大塚 秀行	大玉トマト等
6	農業者	エアト・ベーレ	田中 幸男	イチゴ観光農園等
7	農業者	しげファーム	山本 茂晴	有機農業多品目
8	農業者	さわの森農園	澤守 久美子	イチゴ・野菜類
9	関係機関	JA千葉みらい 常務理事	加藤 康幸	連携機関
10	関係機関	千葉農業事務所 次長	豊田 祐輔	連携機関
11	関係機関	千葉県総合農業支援センター 監理役	加藤 浩生	連携機関



1. 第1回検討委員会

第1回検討委員会の概要

■ 目的

- リニューアル方針を説明したうえで、各委員が思う農政センターに期待すること、欲しい機能についてより多くの意見を出してもらう

■ 開催日時・会場

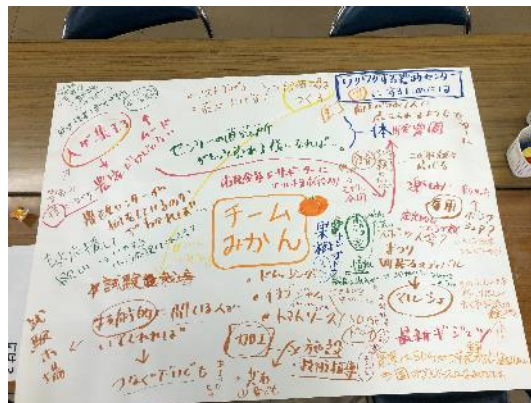
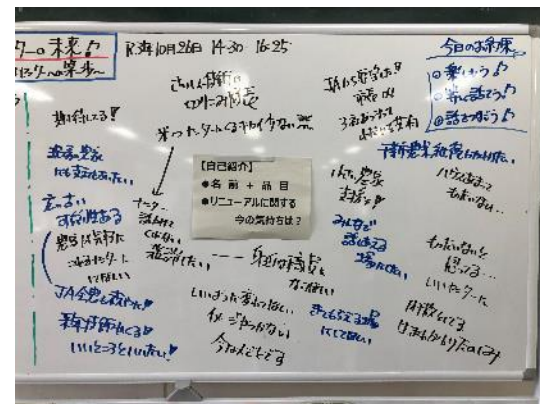
- 日時 10月26日（火）13時30分～16時30分
- 会場 農林業センター2階会議室（農政センター内）

■ 参加者

- 検討委員、農政センター表谷、森田、高須、中田、橘園、柴田、鶴岡、松崎、佐々木

■ 内容

時間	内容
13:30	開会・挨拶
13:35	本日の予定説明・委員紹介
13:40	・機能強化リニューアル方針説明 ・計画策定進捗報告
13:50	外に移動
13:55～14:20	場内見学
14:30	意見交換ワークショップ
16:20	今後のスケジュールについて説明
16:30	閉会



【検討会資料】 リニューアル構想づくり イメージパンフレット(1/2)

千葉市の農業

千葉市は約100万人の人口規模を誇る政令指定都市でありながら、都市型農業が盛んであり様々な品目が栽培されています。経営面積は1,652ha(R2年)、農業産出額は88億円(R元年)を誇ります。そのうち野菜が約半数を占め、次に酪農が多いです。その他にも米、鶏、果樹などが生産されています。

【栽培環境】

- ・年間平均気温／17℃(R2年)
- ・年間降水量／1,792mm(R2年)
- ・年間日照時間／1,880時間(R2年)



千葉市農政センターについて

施設概要

開設 昭和53年5月

総面積 栽培圃場など 24ha

設備 温室(23棟)、畑(露地)、水田、植物工場(閉鎖型)、直売所、多目的ホール、グラウンド等

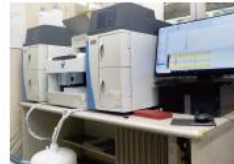
農政センターの役割

種苗供給 イチゴ、ラッキョウ等のウィルスフリー苗を生産し市内の農家へ供給

試験栽培 栽培試験、実証実験を行い、市内の農業者へ技術指導を実施

土壌診断 土壌や水耕養液の分析を行い、適切な施肥の指導を実施

各種研修 新規就農希望者や農業者を対象に生産技術・農業経営の研修を実施



お問合せ先

千葉市経済農政局 農政部 農政センター 農業生産振興課

千葉県千葉市若葉区野呂町714-3

TEL 043-228-6280

MAIL seisanshinko.AAC@city.chiba.lg.jp

千葉市農政センター リニューアルプロジェクト

Renewal Project



【検討会資料】 リニューアル構想づくり イメージパンフレット(2/2)

リニューアルに至った経緯

農政センターは、昭和53年に都市農業の推進を目的として開設されました。農政センターでは市内農業者への営農指導や種苗供給・土壌診断等に取り組んでおり、技術向上や産地化に貢献してきました。

開設から約40年が経過した農政センターの設備は老朽化が進行するとともに農業技術が少ないことなど、地域農業へ貢献できる領域が限定されてきました。農業分野の技術革新やグローバル化など、農業情勢が大きく変化していくなか、農政センターが担うべき役割を改めて見直し、農業者に必要な農政センターへと変革することを目指します。

リニューアル方針では「スマート農業実証フィールド」「栽培試験・研修の強化」「農業技術の指導力強化」の3つを掲げています。

来年度以降、フラッグシップとして最新鋭の技術を開いたイチゴ及びトマトの栽培施設を整備し、これらの施設を活用した担い手育成に取り組みます。

スマート農業実証フィールドとして各種技術に触れ、体験できる場とするともに、農業技術はこれらの活動等を通じて最先端の農業技術やデータを活用した栽培・経営管理を学び指導力を高め、地域の農業者へ貢献します。

リニューアルプロジェクトの方向性

1 スマート農業実証フィールド化

民間と連携する新たなエリアをOPEN

農業の課題を解決するスマート農業技術を体験できる場、技術開発、実証の場を提供します。



2 栽培試験・研修の強化

先進農業技術で就農者を育成・輩出

施設園芸の先進技術を導入したモデル農場をOPENし、新規就農希望者、市内の農業者等が先進技術や環境制御に関する考え方や方法を知る場を提供します。



3 農業技術の指導力強化

スマート農業技術の普及やデータ活用できる技術者を育成

栽培試験での知見・経験及び、データ活用スキルの習得により、指導力を強化、地域農業者を支援します。



リニューアルイメージ



スマート農業実証フィールド

近年、アグリテック企業による各種スマート農業技術の開発が進む中、農業の担い手不足、生産技術の継承などの課題を解決するため、実際の農業生産現場での活用の実証や、体験できる場として、農政センターを「スマート農業実証フィールド」にします。

農業者には最新技術の体験の場を、アグリテック企業には、技術開発、実証の場を提供します。

将来、市内農業者が技術・サービスを導入する際には、農政センターの農業技術が導入支援や運用支援にも取り組んでいきます。農業技術は、民間企業等と連携することで、スマート農業技術の使用等方法等を身に付け、市内農業者が技術を活用し農業経営の発展につなげていくことを支援します。

実証フィールド

農政センターが保有する農地や施設に加え、市内の農業者の現場も実証試験等でマッチング！

1 温室

要望により、各種対応



2 露地

露地畑がセンター内にあり



3 ドローン

ドローン飛行が可能な専用エリア



利用テーマ(例)



スキーム図



第1回検討委員会から見たリニューアル後に満たすべき要件

時間・労力を割いて農政センターを来訪する理由・魅力

ビジョンを実現するために、農政センターでは下記の魅力（機能）を備えていきたい

関係者

関係者にとっての農政センターの魅力



農業者

- ・ 農業経営を強化できる資源にアクセスできる
（成功モデル（農法・品目）、先進技術、販路、補助金）
- ・ マーケット（農産物の提供先である市民・消費者）の理解を深められる
- ・ 千葉市という立地・環境ならではの農業、環境配慮型の農業を学べる
- ・ 自身の農業経営の出荷・加工・販売機能を担ってもらえる



アグリテック企業

- ・ ターゲットである農業者と交流できる
- ・ 自社技術を検証できる、農業者・参入（予定）事業者に訴求できる
- ・ 自社技術を搭載した農業の付加価値を消費側を巻き込んで創造できる



市民・消費者

- ・ 自分の口に入れる農産物の生産に触れ、食の価値の理解を深められる
- ・ 地産地消に取り組める
- ・ 土・農業に触れライフスタイルを豊かにできる

2. 第2回検討委員会

第2回検討委員会の概要

■ 目的

- リニューアル方針として検討してきた、アグリテック実証、新たな生産モデル（施設・露地）、リニューアル後のビジョン等を説明したうえで、各委員が思う農政センターに期待すること、欲しい機能についてより多くの意見を聴取

■ 開催日時・会場

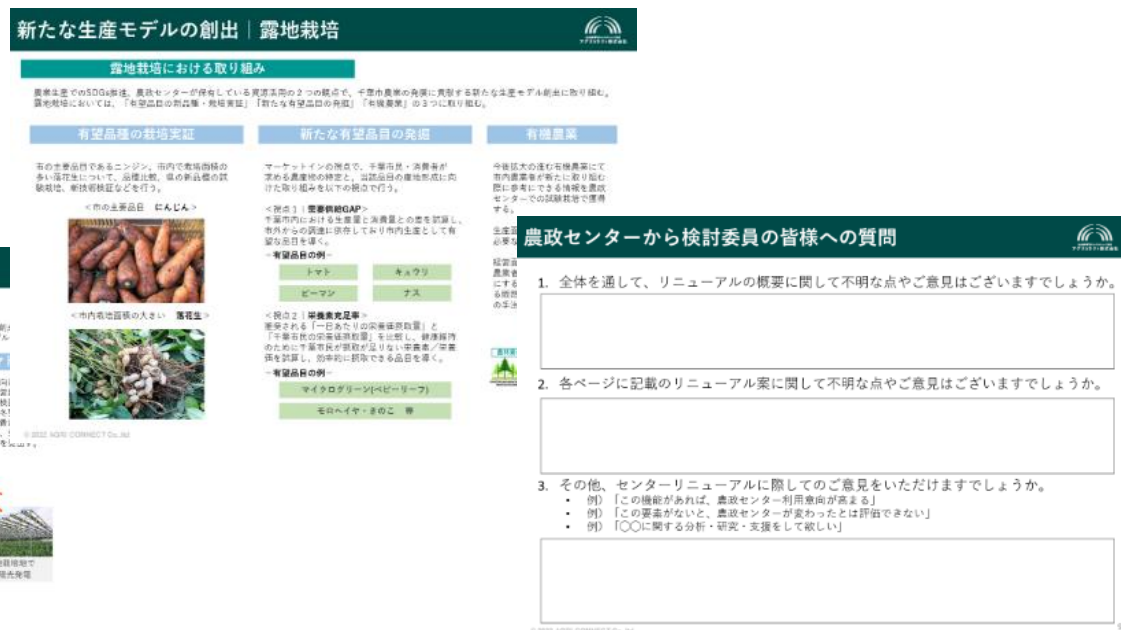
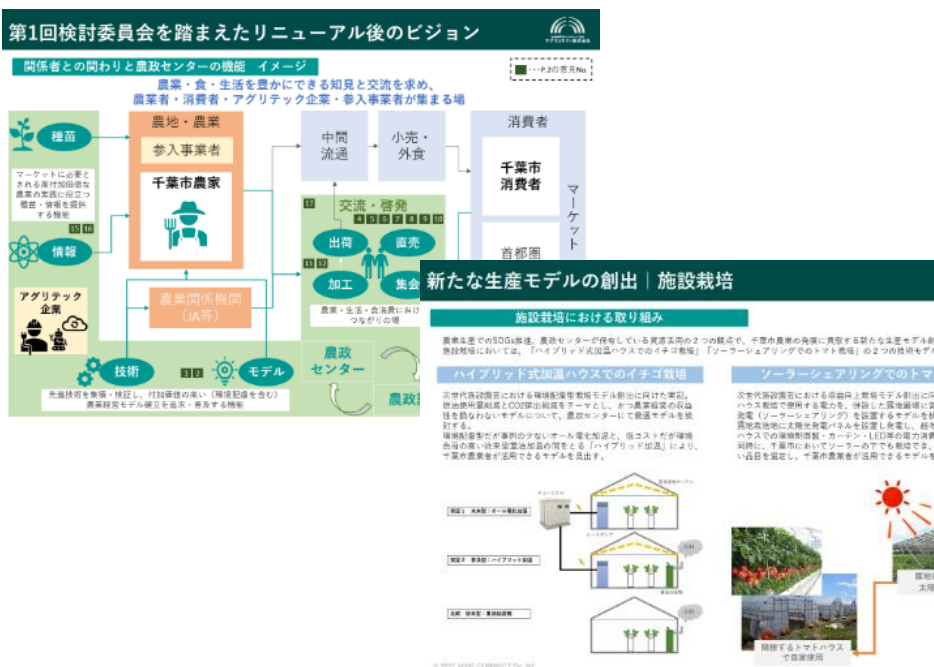
- 日時 2月8日 (火)
- 会場 -

■ 参加者

- 書面開催(新型コロナウイルスの感染状況を配慮)

■ 内容

- リニューアル方針の資料を2月8日に配布
- その後農業技師により各検討委員に電話またはメールにて意見を聴取



3. 第3回検討委員会

第3回検討委員会の概要

■ 目的

- 検討したリニューアル内容の説明・報告を行った上で、リニューアル成功に向けて必要なこと、各自が出来ることをワークショップ形式で意見交換する

■ 開催日時・会場

- 日時 3月15日（火）14時00分～16時00分
- 会場 農林業センター2階会議室（農政センター内）

■ 参加者

- 検討委員、農政センター表谷、森田、高須、中田、橘園、柴田、鶴岡、松崎、佐々木

■ 内容

時間	内容
14:00	開会・挨拶
14:05	本日の予定説明
14:10	・ 検討したリニューアル内容の説明 ・ 意見交換ワークショップ
16:00	閉会

